

神経精神科学

担当指導医師

●本院

教授：酒井 明夫

講師：大塚 耕太郎、八木 淳子、星 克仁

助教：吉田 智之、山家 健仁、福本 健太郎、遠藤 仁、橋本 信一郎、
工藤 薫

助教(任期付)：小泉 範高、佐藤 瑠美子、吉岡 靖史

客員准教授：鈴木 満

非常勤講師：鈴木 廣子、伴 亨、及川 暁、智田 文徳

いわて東北メディカル・メガバンク機構地域連携・医療情報ICT部門

特命講師：三條 克巳

基本方針：

精神障害の診断と治療、ケア、リハビリテーション、精神保健福祉に関する理解を深めることを目的とし、医療行為の内容については、厚生労働省、臨床実習小委員会の最終報告案「許容される基本的医療行為の水準Ⅰ～Ⅲ」のなかで、当科関連の事項を中心に、出来る限り参加できるようにする。具体的には以下に記す実習に参加してもらう。

実習内容：

1. 外来

(1) 指導医の指示に従って、初診面接、問診により正確な精神科的既往歴、生活史、

現病歴、ならびに身体所見を聴取する。方法論としてはさまざまな症状評価尺度の記載法を学びながら、それを実際に臨床診断のために用いていく。

(2) 精神科医による診察、主に新患の診察状況を見学する。

(3) 鑑別すべき疾患を列挙し、鑑別のための検査計画をたてる。その後、ICD-10、

DSM-IV・Vを用いて精神医学的診断を行う。

(4) 薬物療法、精神療法、認知－行動療法リハビリテーションなど適切な治療計画

をたてる。

(5) 任意入院、医療保護入院、応急入院、措置入院など、精神保健福祉法による入

院手続きを理解し、その適応を検討する。

(6) 他の総合病院や精神病院との連携を学び、身体的合併症を持つ精神科症例や

身体科で加療中に精神症状が発現した症例について、コンサルテーション・リエ

ゾン精神医学的臨床を体験する。

2. 病棟

(1) 2～3名の入院患者の主治医（指導医のもとで）として、疾患の理解を深め、急

性期治療（抗精神病薬の投与、電気けいれん療法）、慢性期治療、リハビリテー

ション、社会復帰、環境調整に参加する。

(2) 患者の人権についての理解を深め、精神保健福祉法による適切な身体保護・拘

束について理解する。

(3) 指導医のもとで、症例のプレゼンテーションを行い、文献的考察を加味した症

例報告を提出する。

(4) 特に、急性期の統合失調症や気分障害（うつ病相、躁病相）の治療、器質性精

神病（脳器質疾患に伴う精神病、症状精神病）の検査と治療、児童・思春期

の精神障害の治療、慢性期の統合失調症のケアとリハビリテーション、老年期の

認知症関連疾患（脳血管性認知症、アルツハイマー型認知症、初老期認知症など）の診断・治療・ケアに参加する。

(5) 脳波、心理検査（性格検査、知能検査）、電気けいれん療法を見学する。

(6) 患者さんと積極的に交流すること。

3. 医局行事への参加

(1) 抄読会：最新の外国語文献の内容を把握し、それを教室員に紹介する。

他の紹

介内容について質疑応答に参加する。

(2) 回診（週2回）：精神科に入院中の症例について病状、予後、治療方針を考え、

質疑応答に参加すること。

(3) 症例呈示会：治療困難な、もしくは興味深い症例の検討に参加し、意見を述べ

ること。

(4) 学生による症例発表：ポリクリの症例研究を検討し、先輩として意見を述べ、

指導すること。

(5) 医局主催のセミナー：各専門分野の講師が呈示する研究内容を把握し、質疑応

答に参加する。

4. その他

(1) 精神保健福祉センター、保健所における精神保健相談を体験し、各機関の機能

を理解し、精神保健行政についての知識を習得する。

(2) 精神科救急についての知識を習得する：具体的には、当直医とともに精神科救

急患者を診察し、救急処置や入院の要否の判断過程に加わり、任意入院、医療

保護入院、応急入院、措置入院などの入院形式の適応を考慮し、精神保健福祉

法に定められた対応形式を実際に体験する。

(3) 精神科薬物療法のセミナーに参加し、抗精神病薬、抗うつ薬を中心とした向精神薬の薬理作用を理解し、実際に投薬計画を検討すること。

(4) 精神医学史のセミナーに参加し、精神医学の症状論や疾患概念の歴史への理解を深め、現行の精神医学的パラダイムの批判的検討を行うこと。

(5) 医学哲学、医学倫理一般についてのカンファレンスに参加し、医師－患者関係、インフォームド・コンセント、代償・利益比、ターミナルケア、医療財源配分の問題などについて意見を述べること。

- (6) 精神医学的倫理についてのカンファレンスに出席し、基本的人権と強制入院、服薬コンプライアンスと向精神薬の副作用、治療的—非治療的薬物投与の問題などについて意見を述べること。

授業に使用する機械・器具と使用目的

使用区分	使用機器・器具等の名称	個数	使用目的
視聴覚用機械	ノート型 PC	1	臨床実習における症例検討会
視聴覚用機械	PC 一式 (Precision370HT)	2	臨床実習における症例検討会
視聴覚用機械	データプロジェクター (XJ-350)	1	臨床実習における症例検討会
その他	カラーレーザープリンター (IPSIO CX3000)	1	臨床実習における講義資料作成
その他	複合機 (imagio NEO C600)	1	講義資料作成用
視聴覚用機械	デスクトップパソコン (SVJ2021AJ)	1	講義資料・問題作成
視聴覚用機械	ノートパソコン (ThinkPad X1 Carbon)	1	問題作成
視聴覚用機械	デスクトップパソコン (ThinkCentre M91P)	1	実習スケジュール管理等
視聴覚用機械	デスクトップパソコン (MD094J/A)	1	講義資料作成
視聴覚用機械	デスクトップパソコン (SVJ2022AJ)	1	実習資料作成